

1. 4 研究論文・小論文の書き方（国語分野）

(1) 研究開発の課題（研究概要）

獲得した情報を理解し、論理的に考察・分析し、その成果を文章化して他者に示すための、論文の構成のあり方、叙述方法を学ぶ。そしてその学習を踏まえ、課題研究として研究した内容を論文にまとめる。

(2) 研究開発の経緯

4月当初から評論文の要約に取り組み、得られた情報を論理的に表現する方法を学んだ。1学期、3学期末には、テーマを与え、自らテーマに沿った題材を見つけて小論文を執筆した。2学期末には、パラグラフライティングについて理解し、課題研究のレポートを論文の形式にまとめた。

(3) 研究開発の内容

ア 仮説（ねらい、目標）

本事業は、獲得した情報を理解し、論理的に考察・分析を進める創造力・理解構成力などの「科学リテラシー」を促すことができると考えられる。

イ 研究の内容・方法

該当教科 SSH国語総合

対象生徒 普通科1年生徒 8学級

実施場所 本校 各教室

実施内容

要約

『力をつける現代文基礎編』（数研出版）記載の評論文の要約

論文

- | | | |
|-----|---|---------------------------|
| 1学期 | 1 | 原稿用紙の使い方・パラグラフライティングの書き方 |
| | 2 | テーマ型小論文の執筆①（相互評価・自己評価を含む） |
| 2学期 | 3 | 論文の構成のあり方 |
| | 4 | 課題研究論文執筆（相互評価・自己評価を含む） |
| 3学期 | 5 | テーマ型小論文を書く②（相互評価・自己評価を含む） |

ウ 検証（成果と反省）

1学期、生徒からは当初、何を書けばいいのかわからないという意見が数多くあった。しかし指導をするうちに「正解がわからない」という考えであることがわかった。解答を探すのではなく、自分で論理を組み立て表現することが重要なのだということについて指導をした。

2学期の論文執筆については「ベースとなるレポートがあるために書きやすい」という意見と「レポートと論文の違いがわからない」という意見があった。論文構成の指導及び相互評価を経た後にとったアンケートによれば、「難しくはあったが、より良い論文の書き方についての理解が深まった」という意見が多数となり、有意義な学習であったと思われる。

以上の指導により文章の構成に関しては身についたと感じる一方で、論文の内容に関してはまだ不十分な面も多い。特に批判的に物事を読むということが難しいようである。筆者の主張を主張として受け止めた上でそこから問題意識を持ち、自らの主張を組み立てていくことなどを始め、引き続き丁寧に指導していく必要があると考えられる。